

トームペア城(エストニア タリン市)(エストニア国会の議事堂)

トームペア城 (*Toompea loss*) は、エストニアのタリン歴史地区西部トームペアにある丘の上の城。南側の高さ 50.2 メートルの塔は、のっぼのヘルマンと呼ばれる^{[1][2]}。

歴史

11 世紀までにエストニア人は木造の城を建設した。13 世紀、リヴォニア帯剣騎士団が占領して本格的な要塞建設を開始し、18 世紀末までの改修で現在のような外観となった。20 世紀末にロシアから独立して後は、エストニア国会の議事堂として使用される。

Wikipedia による

石灰岩の崖の上にそびえ、都市全体を見渡す「トームペア城」は、これまで常にエストニアの力の象徴でした。

ドイツ帯剣騎士団が 1227～29 年にかけて同地に石造りの要塞を建設して以来、エストニアを支配した外国の全帝国は、基地としてその城を使いました。今日それはいみじくも、エストニア議会の拠点となっています。

城にはこれまで数世紀を通して、無数の修復が行われましたが、13 世紀と 14 世紀に生まれたその基本形状は、依然として保たれています。城の前に立つと、エカチェリーナ 2 世の時代に遡る、バロック形式で構成されるピンク色の城を眺めることができます。丘の麓から見える、裏側の外観は、ずっと中世風の様相となります。

城の南端のガバナーズ・ガーデン(統治者の庭園)からは、46 メートルの「のっぼのヘルマン塔」が見えます。のっぼのヘルマン塔は、国内で欠かすことができない重要シンボルです：それがどんな国であろうとも、のっぼのヘルマン塔に掲げられた旗がエストニアを統治することになる、という伝統が受け継がれています。太陽の上る日には、エストニアの国旗が、国家のメロディーとともに塔の上に掲げられます。

タリン観光案内所による

